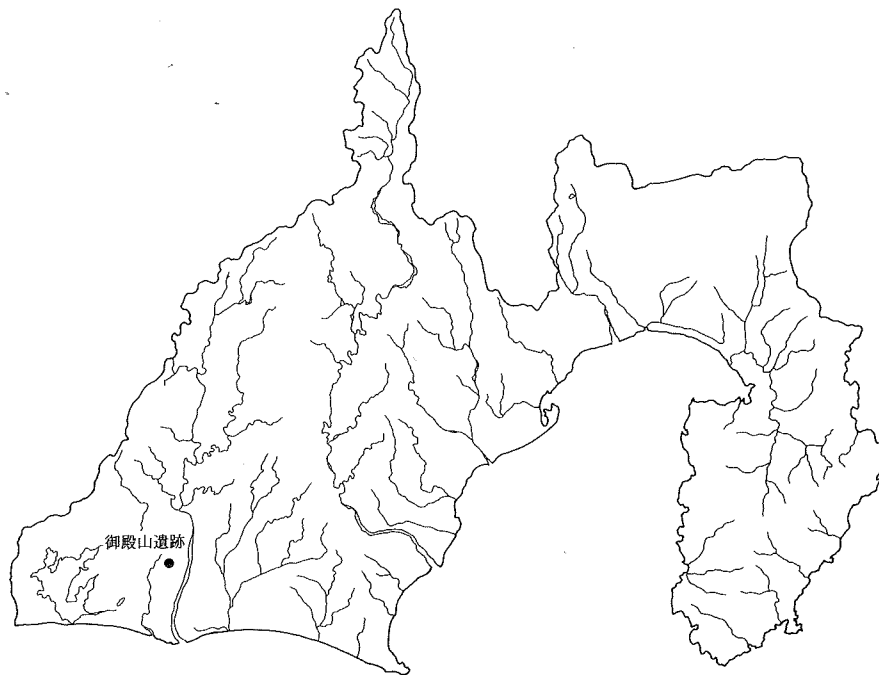


ご てん やま
御殿山遺跡3次



2003年

(財) 浜松市文化協会

例言

1. 本書は浜松市笠井町1050番地（浜松市立笠井小学校内）で行われた御殿山遺跡の3次調査の報告である。
2. 調査は浜松市立笠井小学校のプール建設工事に先立つ事前調査として実施した。
3. 調査は浜松市の委託により、浜松市教育委員会（浜松市博物館）の指導のもと財団法人浜松市文化協会が実施した。
4. 現地調査、及び本書の作成は佐藤由紀男（浜松市博物館）が担当し、柴本七重（浜松市博物館）が補佐した。
5. 本書の執筆は佐藤由紀男が行った。
6. 調査の記録、出土遺物は浜松市博物館が保管している。



第1図 周辺遺跡図 (25,000分の1)

- (1. 上石原遺跡 2. 隋国遺跡 3. 八幡西遺跡 4. 蛭子森古墳 5. 八幡南遺跡 6. 服織神社境内遺跡 7. 大通西遺跡 8. 宮前遺跡 9. 御殿山遺跡 10. 万斛遺跡 11. 笠井町広野遺跡 12. 笠井西浦遺跡 13. 笠井町下組遺跡 14. 八ツ面遺跡 15. 平松遺跡 16. 社口遺跡 17. 茶ノ木田遺跡 18. 笠井若林遺跡 19. 恒武遺跡群)

I、はじめに

御殿山遺跡は、浜松市笠井町の市立笠井中学校・笠井小学校周辺に広がる周知の埋蔵文化財である。笠井中学校のプール改築工事(1次調査、浜松市文化協会2000)、法栄寺の本堂建て替え工事(2次調査、浜松市教育委員会2003)に伴う発掘調査が過去に実施されてきた。今回は笠井小学校でプール建設工事が計画されたため3次調査を実施することとなった。

プール
建設

II、地理的・歴史的環境

天竜川は三方原台地と磐田原台地との間に沖積平野を形成している。御殿山遺跡の所在する笠井町は沖積平野の中では北よりに位置し、基盤層としての礫層が広範に確認される。この礫層は北側の浜北市域に連続し、南側の長上地区では確認されないことから、笠井町付近は扇状地地形の末端部分と考えられる。

天竜川
扇状地

築堤以前の天竜川は両台地間で流路変更を繰り返し、網目状に流れていたと推定される。御殿山遺跡推定範囲内においても2次調査区の西側は自然流路となっていたことがわかっている。(浜松市文化協会2000)。

笠井地区では弥生時代以前の遺跡は恒武遺跡群の山の花遺跡で条痕紋系土器の小破片が出土しているのみであり、微高地上に集落などが形成されるのは古墳時代以降のことと推定される。恒武遺跡群(第1図19)は恒武西浦遺跡・恒武東覚遺跡・恒武西宮遺跡・山の花遺跡で構成される遺跡群であるが、古墳時代前期以降中世に至るまで地点を変えながら継続した集落の存在が確認され、安定した条件が続いたものと推定される。

古墳時代
以降

古墳時代前期では恒武西宮遺跡の大量に土器が出土した方形周溝墓、中期では山の花遺跡・恒武西浦遺跡で検出された多量の木製祭祀遺物が出土した大溝などが注目される。後期の集落も恒武西宮遺跡などで確認されている。また、蛭子森古墳(第1図4)は平野内に立地する径24mの後期の単独円墳である。群集墳盛行時の単独古墳であり、群集墳の被葬者とは隔絶する存在である。

大溝

奈良・平安時代の遺跡は社口遺跡(第1図18)・笠井若林遺跡(第1図16)などが知られている。官衙的性格を示す円面硯や墨書土器も出土しており、注目される。

官衙

鎌倉時代の遺跡は今回の御殿山遺跡をはじめ笠井若林遺跡、恒武西宮遺跡など笠井地区の多くの遺跡でこの時期の遺構、遺物が検出されている。当時の笠井地区やその周辺には、羽島荘と美園御厨が存在したことが分かっているが、その領域の詳細は不明である。

羽島荘
美園御厨

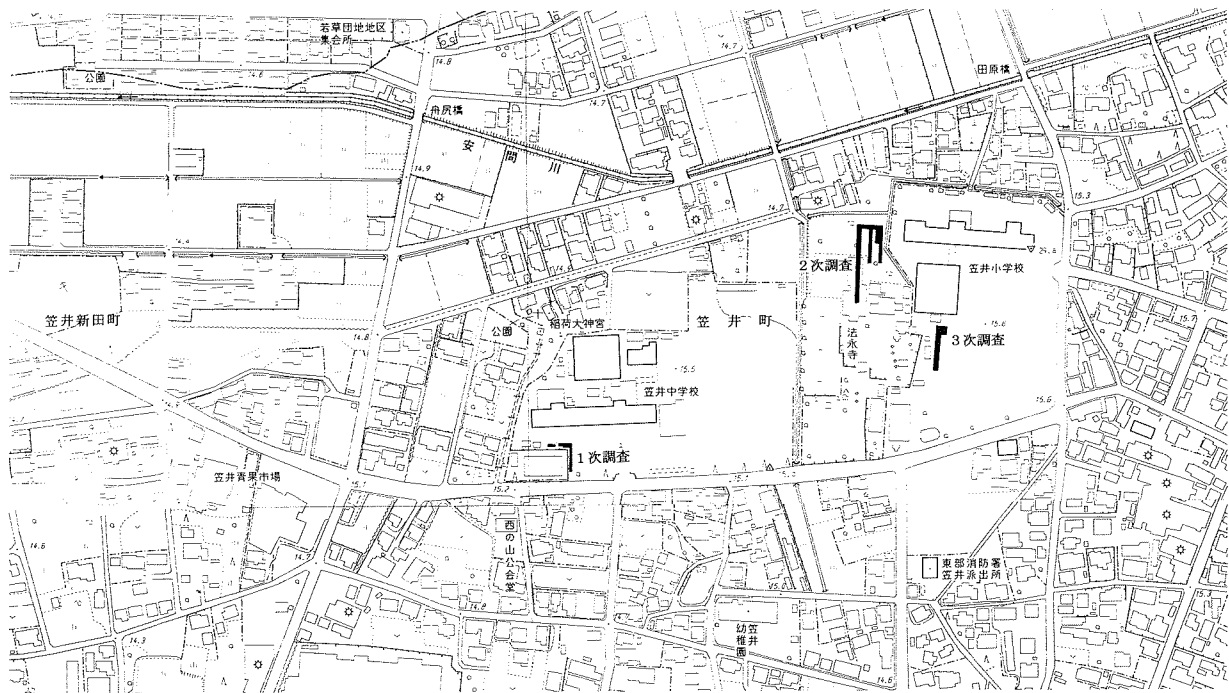
室町時代から戦国時代の遺跡は恒武西宮遺跡や笠井若林遺跡で屋敷地を区画する溝が検出されている。注目される遺物としては笠井若林遺跡から竿秤の錘が出土している。

III、調査の方法と経過

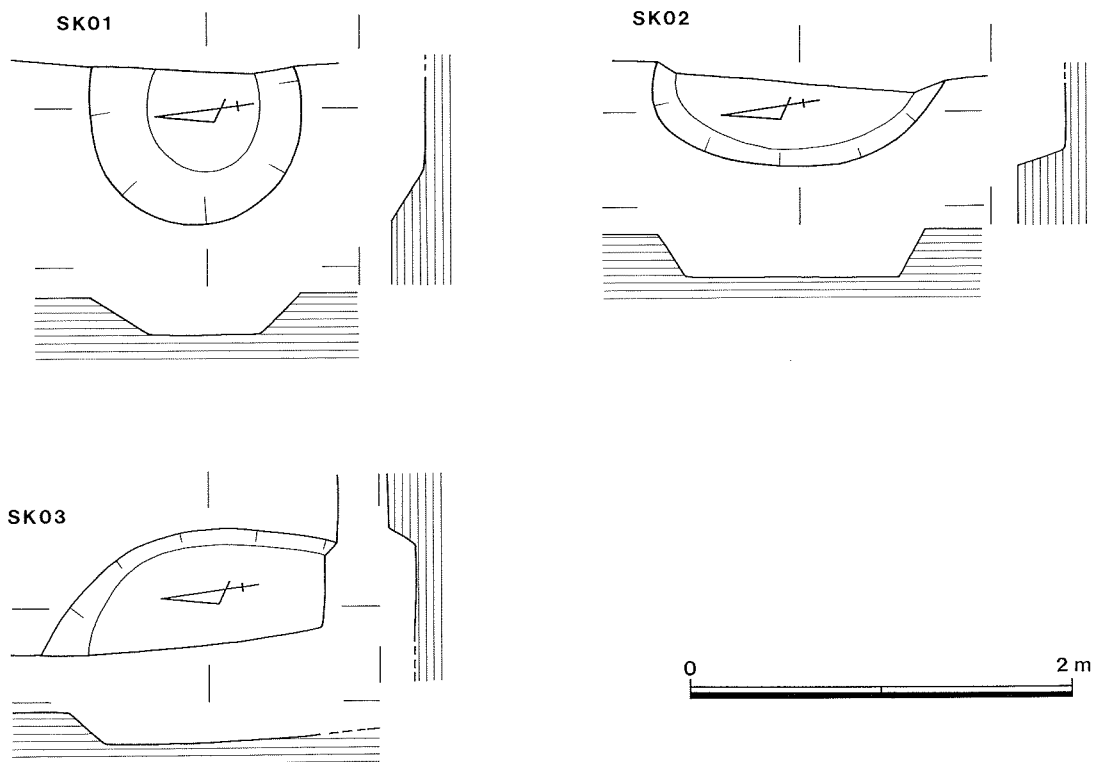
プールは現地表面上に建設される部分が多く、建設に伴う掘削で遺跡が破壊されるのは12㎡程度の僅かな面積に過ぎない。この部分(調査区の北東隅部分)については平面調査を実施した。また、遺跡の範囲・性格を把握するためプール建設予定地部分に幅2m長さ28mのトレンチを設定し、調査した。

平面調査
トレンチ

調査は遺構検出面である礫層もしくは砂層上面まで重機(バックホー)を用いて掘削し、その後人力にて平面、断面を精査し、遺構・遺物の検出に努めた。検出した遺構は、土層



第2図 周辺地形図 (5,000分の1)



第3図 SK (L=14m)

記録 や遺物の出土状態に注意しながら慎重に掘り下げた。掘削が完了した遺構は20分の1の縮尺で実測図を作成すると共に、写真撮影を行い、記録した。

実際の調査は2002年7月29・30日に測量、調査区の設定、31日に重機による掘削工事、8月1・2日に人力による調査・実測などを実施した。

IV、調査の成果

現地表面下には校庭造成時の盛土が70cm程度堆積し、以下旧表土層と考えられる黒色土層が20cm程度、その下に暗褐色粘質土層が20cm程度堆積し、基盤層にいたる。基盤層はSP21より北側では礫層であるが、南側では砂層となる。暗褐色粘質土層には僅かな量ではあるが、遺物が包含されていた。なお、検出した遺構の覆土はいずれも暗褐色粘質土であった。

検出した遺構は小穴31基、土坑3基である。

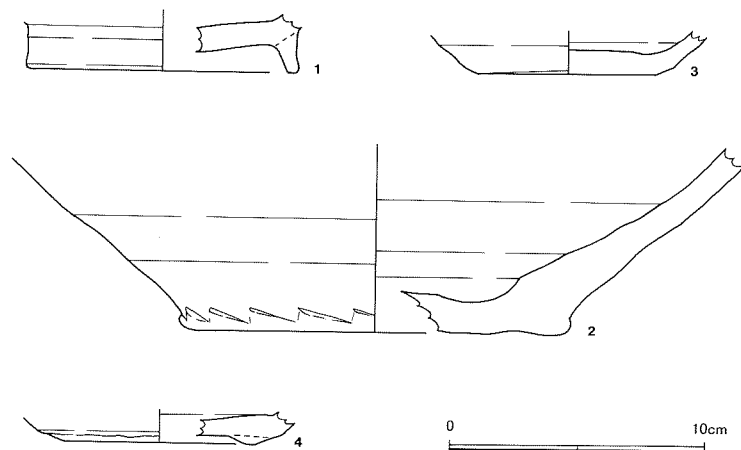
小穴は調査区全域から検出され、中でもトレンチ北半部分に集中している。検出面からの深さが30cm以上のものも多く、SP19は深さが59cmある。こうした小穴の多くは建物跡の柱掘方の可能性が高いが、調査面積が狭いこともあり、建物跡の様相を推定することはできない。小穴からの出土遺物は極僅かな細片のみであり、図示することはできないが、SP19からは12世紀代と推定される渥美産の甕破片と、時期不詳の中国産青磁の細片が出土している。個々の小穴の詳細は表1を参照していただきたい。

土坑は3基検出したが、全体の形状が分かるものはない。個々の図は第3図に示した。遺物はSK03から11世紀代あたりの灰釉陶器(第4図1)、12世紀後半代と推定される渥美産の甕(第4図2)が出土した。

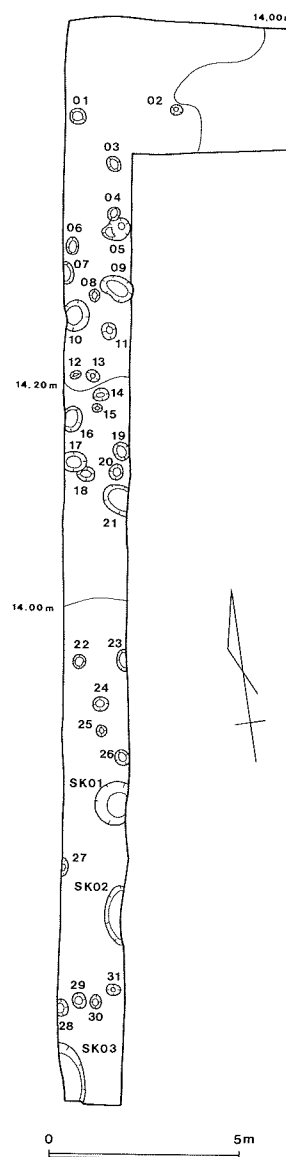
包含層からは第4図3・4の土器が出土した。いずれも13世紀後半代の山茶碗である。図示できない小片では12世紀後半代の渥美産の甕、12～13世紀代の常滑産の甕、18世紀代の志戸呂焼きが出土した。

小穴31

土坑3



第4図 出土遺物 (1・2—SK03、3・4—包含層)



第5図 全体図

V、おわりに

御殿山遺跡の1次調査では鎌倉時代と推定される溝1条、2次調査では自然流路と鎌倉時代から戦国時代と推定される小穴・土坑が検出されている。今回の3次調査では平安時代末から鎌倉時代の遺物が出土し、小穴や土坑が検出された。小穴の配列は不明であるものの、柱掘方の可能性が高く、何らかの建物が想定される。2次調査の成果も参考とすれば、少なくとも自然流路の東側(現在の笠井小学校域)には平安時代末から鎌倉時代の建物が比較的広い範囲に構築されていたと予想される。

文献

(財) 浜松市文化協会2000『御殿山遺跡』

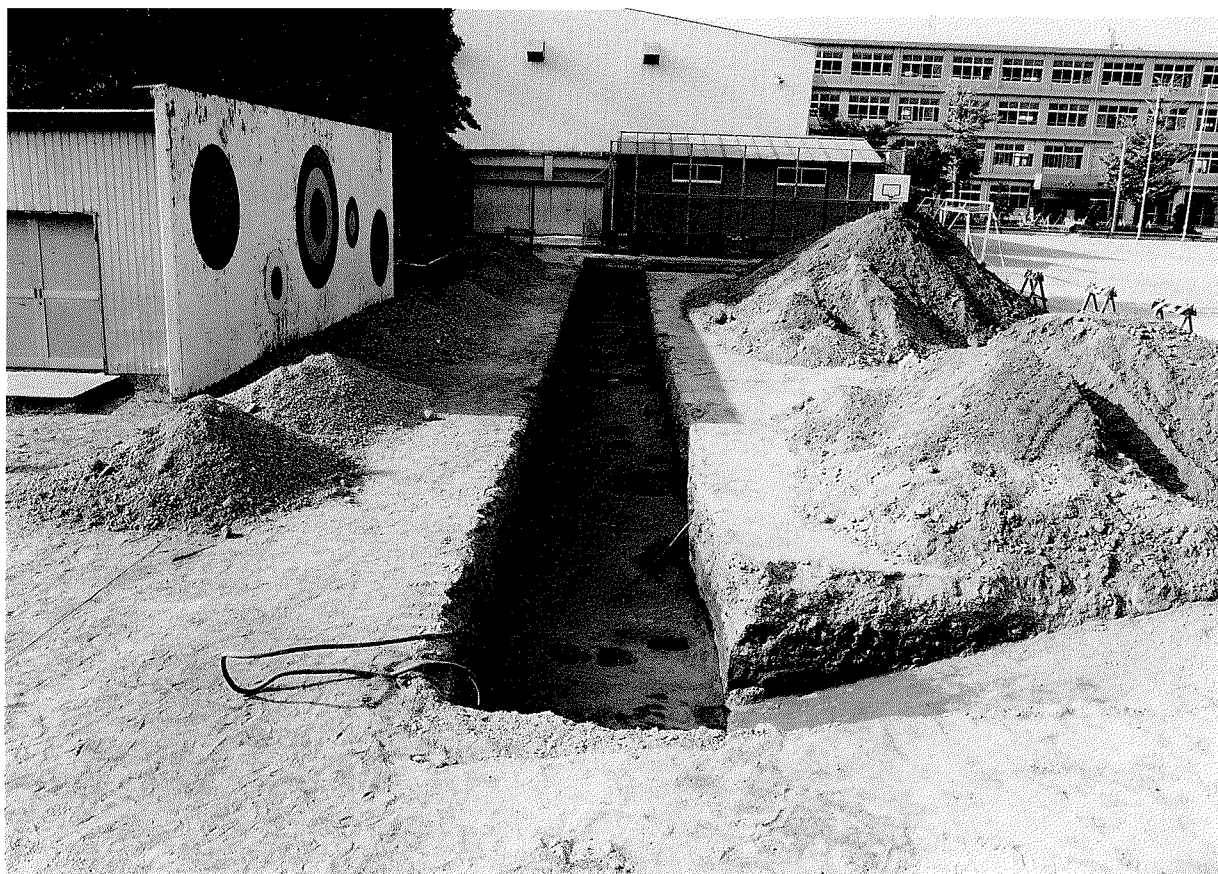
浜松市教育委員会2003『浜松市遺跡調査集報』

番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	底面の標高(m)	番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	底面の標高(m)	番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	底面の標高(m)
01	39	38	31	13.824	12	27	22	13	14.034	23	56	(25)	8.5	13.839
02	31	31	11	13.904	13	34	32	17.5	13.994	24	37	36	18.5	13.729
03	36	35	15	13.904	14	37	32	19.5	13.974	25	30	28	15	13.714
04	40	35	17	13.939	15	25	25	12.5	14.044	26	39	38	16.5	13.654
05	72	57	33	13.782	16	59	(38)	42.5	13.774	27	45	(14)	21	13.669
06	42	34	16	14.029	17	55	(53)	35.5	13.789	28	38	(22)	20	13.754
07	56	(20)	10.5	14.049	18	35	35	18.5	13.874	29	38	37	12	13.774
08	27	25	17	13.914	19	48	44	59	13.574	30	36	31	18	13.744
09	(82)	60	41.5	13.734	20	40	37	18.5	13.884	31	33	30	13.3	13.751
10	67	(52)	25.5	13.875	21	74	63	14	13.924					
11	35	32	31	13.784	22	36	34	2.5	13.924					

第1表 SP計測値表



調査前全景 (南から)



調査後全景（南から）



発掘区北東部分（西から）

報告書抄録

書名（ふりがな）	御殿山遺跡3次（ごてんやまいせき3じ）
副 書 名	
卷 次	
シリーズ名・番号	
編 著 者 名	佐藤由紀男
編 集 機 関	浜松市博物館 〒432-8018 浜松市舘塚4-22-1 電話 053-456-2208
発 行 機 関	（財）浜松市文化協会 〒430-0916 浜松市早馬町2-1 電話 053-453-5234
発 行 年 月 日	西暦 2003 年 3 月 14 日
所 収 遺 跡 名	御殿山遺跡（ごてんやまいせき）
所 在 地	静岡県浜松市笠井町1050番地
コ ー ド	市町村コード 22202 遺跡番号 10 - 13
北 緯	34度47分00秒 「使用測地系 日本測地系（改正前）」
東 経	137度47分50秒 「使用測地系 日本測地系（改正前）」
調 査 期 間	西暦 2002 年 7 月 29 日～2002 年 8 月 2 日
調 査 面 積	約70㎡
調 査 原 因	プール建設
遺 跡 の 種 別	集落
主 な 時 代	鎌倉時代
主 な 遺 構	小穴、土坑
主 な 遺 物	土器
特 記 事 項	

御殿山遺跡3次

2003年 3 月14日

編集 浜松市博物館

発行 （財）浜松市文化協会

印刷 東海電子印刷株式会社